

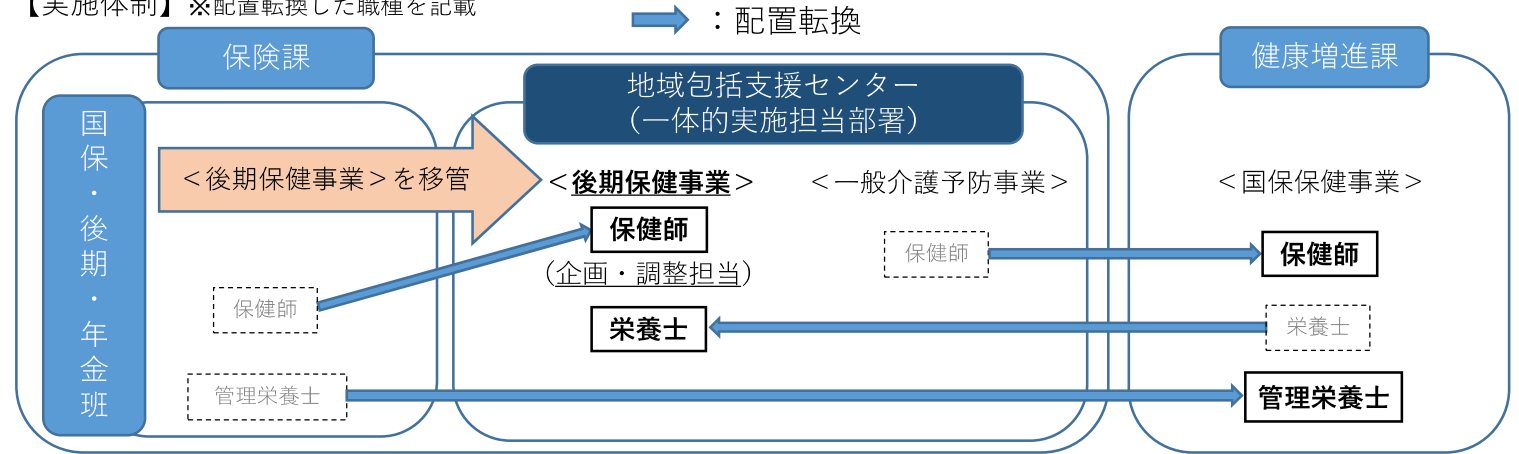
長崎県壱岐市

- 令和2年度に国保・後期・年金班の後期高齢者保健事業業務を地域包括支援センターに移管し、一体的実施担当者が一般介護予防事業担当者と同部署になることで、高齢者の保健事業と介護予防事業がよりスムーズに連携。
- さらに、国保担当、後期担当、介護予防担当が戦略的に配置転換することで相互の事業内容を把握し業務の効率化を図る。

【概況】 令和3年3月31日時点

人	口	25,626人
高	齢	化
率		38.1%
後	期	被
保	険	者
数		5,238人
日	常	生
活	動	圏
域	数	1圏域

【実施体制】 ※配置転換した職種を記載



【取組経緯】

- KDBから抽出した地域の全体像から、血糖・血圧リスクを有する人の割合が年々増加していること、また、介護認定率について、2号の認定率が高いことが見受けられたため、医療費の適正化に向けた予防・健康づくりの取り組みを早期段階から後期高齢者に至るまで一体的に取り組むことが急務。
- また、介護認定率が全国平均よりも高く、後期高齢者に対する介護予防事業の重要性も増してきたことから、制度開始を機に市として一体的実施に取り組むこととした。

【企画・調整等】

地域の健康課題として、循環器疾患に係る医療費の増加や外出自粛等による運動不足からフレイル悪化の懸念が挙げられたことから、『低栄養防止』『口腔機能低下予防』『糖尿病性腎症重症化予防』『健康状態不明者対策』に取り組むこととした。

【ハイリスクアプローチ】

- 低栄養防止・口腔機能低下予防
 - ・ 管理栄養士と歯科衛生士がペアで訪問
- 重症化予防（糖尿病性腎症）
 - ・ 保健師と管理栄養士がペアで訪問
- 健康状態不明者対策
 - ・ 保健師・管理栄養士・歯科衛生士等が状況に応じて訪問
 - ・ 健診未受診者への受診勧奨は、民生委員に依頼。

【ポピュレーションアプローチ】

- 通いの場への積極的な関与
 - フレイル教室を希望した高齢者サロンにおいて、フレイル予防をはじめとした高齢者の健康づくりに関する啓発や各種測定を含めた健康教育や健康相談を実施。



○課題、今後の展望

- ・ 地域の健康課題を分析するためにKDBデータを活用しているが、社会資源、生活習慣病に関する意識など、KDBでは見えない部分のデータを取り入れながらより多角的に地域の健康課題を把握していく。
- ・ ケーブルテレビの活用など、オンラインの環境整備を行いながら、日常的に運動ができる体制を整備する。